



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和4年度11月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

## 表現を楽しむ子供たちに

園長 田村 秀子

いつの間にか木々の葉が色付き初め、ハナミズキの赤い実やドングリを見かけるようになりました。深まる秋の様子や自然物に心を動かしている子供たちです。先日はしばらくぶりに遠足を実施することができ、年長児は歩いて東京ドームシティの遊園地へ、年中児は貸し切りバス2台で新宿御苑へ行ってきました。年長は様々なアトラクションにチャレンジし、年中は広い芝生を走り回ったりドングリや落ち葉を拾ったりして、楽しく過ごしました。新しい体験に笑顔が輝いていました。

先生や友達との楽しかった経験は共通のイメージとなり、会話がはずんだり、様々な表現遊びや活動につながっていきます。「あのね、年少さんや年中さんは遊園地に行っていないから、遊園地作ってあげるんだよ」とワクワクした顔で教えてくれた年長児がいました。また、帰りの集まりの時のジェスチャークイズで先生がコーヒーカップのジェスチャーをすると、その面白さに気付き、いろいろな表現を楽しみ始めた子供たちもいました。年中児も大きな葉を見付けると顔にあてて「フッフッフ…」とお化けになったり、耳にあてて「ホラ、ウサギだよ」とウサギになったり、子供たちの生活の中では、一人一人が自分なりのイメージをいろいろに表現しています。

先日、久しぶりに行った保幼小中連携第三ブロック（向丘保育園、第一幼稚園、誠之小学校、第六中学校）の研修会で、講師の東京家政大学教授 花輪 充先生から「子どもと表現」についてお話を伺いました。「表現とは、自分が内にもっているものを他者に伝え、分かち合い、共感を求めようと願うこと」「表現活動の本質は結果でなく表現にいたるまでのプロセスであり、主体的に内面活動が活性化していく道筋を的確に追うことが大事」「子供とかかわる大人には多様な子供たちの息遣い（ときめき、ひらめき）を受容し、再構成する能力が必要」などのことを学びました。

そして花輪先生から「幼児教育の中で劇遊びという言葉をつくったのは山村きよ先生です」と伺いました。山村きよ先生は、本園の第8代園長先生であることをお伝えすると、花輪先生も感動していらっしゃいました。山村きよ先生のお書きになった文章を探してみると、昭和32年発行の「かざぐるま創立70周年記念号」の中に、「それぞれ個性を発揮しながら、気持ちよく集団生活を営んでいる幸福な子供たち。～各保育室のラジオやレコードプレーヤーも友達同士の操作で気持ちよく利用されて、『自由表現』への面白味を十分感じている」という文章がありました。今から65年前も子供たちは様々な音楽に触れ、自由に身体表現を楽しんでいたことが分かります。型にはまった表現でなく、一人一人の自由な表現を大切にしてくられた山村先生の思いが伝わってきました。

子供たち一人一人の素朴な表現を大事にする姿勢は、今の第一幼稚園の教育にもつながっています。スポーツデーでも、年少組がヒヨコや電車になる動き、年中組がカブトムシやバッタ、カマキリ、チョウになる動き、年長組がUFOや星、宇宙人になる動きを楽しみました。

子供たちがこれからも探求心をもって周りの環境と関わり、表現することの面白さを感じ、自信をもって表現できるよう、教員も一人一人の表現を見付け共感する力や自ら表現する力を高め、学級の認め合う雰囲気をつくって、楽しい生活を共に創り出していきたいと思えます。